

〈全校研究主題〉

生き生きと学び続ける生徒の育成

～主体的・対話的に学びながら、一人一人が課題解決できる授業づくりを通して～

〈社会科の生徒の実態〉

- 資料から読み取った社会的事象を根拠にして、主体的に説明や交流する生徒が増えてきた。
- 既習の「社会的な見方・考え方」をもとに課題解決する力は身に付きつつある。
- 歴史的分野に関して、資料から読み取った社会的事象を根拠に理由を探究する力が弱い。(岐阜県学習状況調査)
- 社会科を学ぶ必要性や日常生活との繋がりを知り、意欲的に社会参画している生徒が少ない。

〈授業で生み出したい姿〉

〈主体的・対話的な姿〉

- *社会的事象に関心をもち、自ら疑問をもって課題を探究する姿。
- *「社会的な見方・考え方」を働かせながら課題を探究する姿。
- *自分の考えと仲間の考えを比較・検討しながら社会的事象に対する認識を深める姿。

〈課題解決できる姿(深い学び)〉

- *「社会的な見方・考え方」を働かせながら、根拠を明らかにして社会的事象を関連付け、多面的・多角的に考察する姿。

〈社会科研究主題〉

主体的に社会的事象にかかわり、「社会的な見方や考え方」を働かせ課題を探究する生徒の育成

〈研究主題設定の理由〉

昨年度は、生徒の実態を分析し、生徒の思考の流れに合わせた単元構成や学習過程を仕組み研究を進めてきた。「単元を貫く課題」を設定し、毎時間のまとめを「本時分かったこと」と「単元を貫く課題につなげて分かったこと」の2つの側面から記述したことで、単元ごとのまとまりを意識した指導を行うことができた。しかし、歴史的分野について、用語が難しかったりして苦手意識をもつ生徒が多く見られ、主体的に社会的事象にかかわったり、社会科を学習する意味や意義について深く考えたりできない生徒も見られた。

社会科部が考える「授業で生み出したい姿」とは、単元を貫く課題を解決するために、課題意識を継続させながら、既習学習(基礎的・基本的な知識及び技能)を活用し、仲間と共に多面的・多角的に考察することを通して、思考と認識を深められる姿である。そこで、本年度は、上記のように研究主題を設定し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、社会的事象の意味や意義を解釈する学習を通して、主体的に社会的事象にかかわり、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会科の教科の本質である物事を公正に判断したり、意思決定したりする力を身に付けさせたいと考えた。

〈研究内容1〉

「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫

- ・単元における「付けたい力」と各単元時間の「社会的な見方・考え方」を活用して単元を貫く課題を設定し、その関連性を示す。
- ・単元の出口で、単元に身に付けた「社会的な見方・考え方」を活用することができる授業を設定する。

〈研究内容2〉

一人一人が課題解決できる手立ての工夫

① 一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫

- ・社会的事象から、必然性のある課題を設定する。
- ・本時における「社会的な見方・考え方」の要点を板書に位置付ける。
- ・「深めの発問」を通して、社会的事象の本質の理解を深められる交流の場を設定する。

② 学びの状況を実感できる授業終末の工夫

- ・本時学んだ基礎的な知識(キーワード)を用いながら、課題について分かったことをまとめたり、単元を貫く課題と結び付けて記述したりする場を設定し、記述した文章の内容で定着状況を見届ける。(終末)

研究の基盤 (確かな学級経営と教科横断の共通指導, PDCA サイクルを意図した指導)

- ① 互いに認め、高め合える学級集団の育成 ② 生徒の自主的な活動の推進 ③ 基礎・基本の定着